

科 目 名		学年
有機化学III : Organic Chemistry III		3C
教 員 名 廣原 志保 : HIROHARA Shiho		
単位	授業時間	科目区分
1	90分×15回	履修
授業概要	有機化学反応の基礎的な考え方から応用までを本講義を通じて理解すると同時に、有機化学反応を実験として取り組む際に、化学反応に対する基本的な知識を深める。エーテル類・カルボニル化合物を題材に、各化合物の命名法、特徴、合成法、人名反応、反応機構などを幅広く講義する。	
到達目標		評価方法
(1)有機化学IIIで扱う化合物の構造と命名と自然現象を含んだ化学的性質を説明できる。 (2)自然現象を含んだ各種反応と合成及び反応機構を誘導することができる。		小テスト(20%) 中間試験(35%) 期末試験 (35%) 自学自習レポート(10%)
学習・教育目標		(A) JABEE基準1(2) (C)
回	項 目	内 容
第1	アルコール・フェノール・チオールの命名	アルコール、フェノール、チオールの命名・アルコールおよびフェノールの化学的性質・酸性と塩基性
第2	アルコール・フェノール・チオールの性質	アルコール・フェノールの酸性度および塩基性度、アルコールの脱水反応によるアルケンの生成、アルコールとハロゲン化水素の反応
第3	アルコール・フェノール・チオールの反応	アルコールとフェノールの違い、アルコールの酸化によるアルデヒドとケトンの生成、フェノールの芳香族置換反応および酸化反応、チオール
第4	章末問題	章末問題
第5	エーテルとエポキシドの命名、性質	エーテルの命名・物理的性質・溶媒としての用途・Grignard試薬と有機金属化合物・エーテルの作り方
第6	エーテルとエポキシドの反応	エーテルの作り方・エーテル結合の開裂・エポキシドの反応・環状エーテル
第7	中間まとめ	中間まとめ
第8	9章 アルデヒドとケトン	アルデヒドとケトンの命名・アルデヒドとケトンの合成
第9	カルボニル化合物の反応1	カルボニル基・カルボニル基に対する求核付加反応・アルコールの付加
第10	カルボニル化合物の反応2	水の付加・Grignard試薬とアセチリドの付加・シアン化水素の付加・窒素系の求核剤の付加
第11	カルボニル化合物の反応3	カルボニル化合物の還元反応と酸化反応・ケト-エノール互変異性・ α -水素の酸性度
第12	カルボニル化合物の反応4	カルボニル化合物における重水素交換反応・アルドール縮合・混合アルドール縮合
第13	章末問題	章末問題
第14	章末問題	章末問題
第15	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。また授業評価アンケートを行う
自学自習の内容		章末問題を指定して、解答させてレポートに纏めさせ提出させる
関連科目		有機化学 I・II・IVと同じ教科書を使用する
教科書		ハート基礎有機化学(H・ハート著・培風館発行)
参考書		モリソン・ボイド有機化学(R.T.Morrison著・東京化学同人発行)
授業評価・理解度		最終回到授業アンケートを行う
副担当教員		
備考		各授業のはじめに5分程度の小テスト(復習)を行う